

熊本県阿蘇郡 南阿蘇村立久木野小学校 4年
藤崎 未夏 (ふじさき みか)

『気持を伝えたい』

私は、生まれつき左足がなく、義足をつけています。学校生活の中で、足がいたい時やプールの時など義足をはずす時があります。

四月になり、一年生が入って来ました。一年生は、まだ入って来たばかりで、私の事を知りませんでした。

五月に運動会の練習が始まりました。体育館での練習の時、半そで半ズボンにはだしてダンスの練習をしていました。半ズボンだったので、義足をはめた足が目立っていました。その時、一年生が何人か集まって

「にせ物の足だ」

と言いました。私は、すごくいやでした。今までも、同じような事を言われてきたからです。だから、いつも足が見えないように、長ズボンばかり着ていました。そして、いろいろ言われるのがこわくて、にげるように義足をかくしていました。本当は、何を言われても気にせずに、どうどうとしていたいと思っていたけど、その勇気がありませんでした。だから「にせ物の足」と言われた時も、がまんしていました。

授業が終わり、担任の先生に相談しました。先生は、

「一年生に足の事を話してみようか」

と言いました。私は、みんなの前で話せるか、自信がなくてまよっていると、先生が、

「話してみようよ」

とはげましてくれました。

その夜、私は一年生に話す文を考えました。内容は、「どうして足がないのか」とか、「みんなと同じことが出来る事」とか、「義足をはめた時は、どんな感じなのか」など、一年生にも分かるように書きました

一年生教室に話しに行きました。三人の友達が、一しょに来てくれました。一年生は、私の話しを、

「すごい。」

と言って聞いていました。その後、みんなの前で義足をはずした姿を見せました。一年生は、びっくりした様子で私を見ていました。その時私は、「やっぱりここでやめようかな」と思いました。

でも私は、勇気を出して見せたり、質問をうけたりしました。
その質問は、
1「走っている時義足は、はずれないの」と
2「手じゅつをする時は、いたくないの」
などの質問です。その時私は、こう答えました。1つ目は、
「ゴムみたいな所がすべり止めになるから、はずれません」
と答え2つ目は、
「ねむっているから、いたくないです」
と答えました。

一年生に、義足の事を分かってもらうために、話をして、いやだった事とか、分かってほしいこととか、自分の気持ちを伝えられたし、一年生の気持ちもよく分かったのでよかったです。これからは、「にせ物の足」と言われなと思うと「ホッ」としました。

勇気を出して話をしたことで、少しずつ自分の気持ちが変わりました。いやだった半ズボンやスカートがいやじゃなくなり、どうどうとできるようになりました。

今では、一年生とも仲良く遊んだりしています。だれも「にせ物の足」と言わなくなりました。

先生や友達から、勇気をもって、自分の気持ちを一年生に伝えられました。ありがとうございました。これから、新一年生や新しい友達と出会った時は、勇気を出してどうどうと、自分の気持ちを伝えたいです

年末この藤崎未夏ちゃんの作文を読ませていただき
衝撃を覚え感動しました！！
一年生の前で自分の足（義足）の事を話した未夏
ちゃんの勇気～皆の前で「話してみたら？」と指導
された担任の先生の勇気。
「事なかれ主義」で過ごしている自分が恥ずかしく
なります！！

この新しい年を迎えるに当たり
自分自身のテーマに「勇気」を
掲げてスタートをきりたいと
思います！
ありがとう未夏ちゃん！頑張ります！

